

資料 1

(1)沖縄県における水害・土砂災害対策等の当面の進め方

沖縄県における水害・土砂災害対策等の当面の進め方

令和7年10月

総合流域防災協議会（沖縄総合事務局・沖縄県）

目 次

1. 総合流域防災協議会	1
(1) 目的	
(2) 圏域区分図	
2. 水害・土砂災害対策等の現状の課題及び当面の進め方	3
(1) 沖縄本島北部圏域	3
①最近の出水及び被害状況	
②土砂災害等	
③水害・土砂災害対策等の課題	
④水害・土砂災害対策等の当面の進め方	
⑤主要事業	
(2) 沖縄本島中南部圏域	14
①最近の出水及び被害状況	
②土砂災害等	
③水害・土砂災害対策等の課題	
④水害・土砂災害対策等の当面の進め方	
⑤主要事業	
(3) 宮古・八重山圏域	33
①最近の出水及び被害状況	
②水害対策等の課題	
③水害対策等の当面の進め方	
④主要事業	

1. 総合流域防災協議会

(1) 目的

沖縄県は、本土復帰後に三次にわたる沖縄振興開発計画、平成14年度からの沖縄振興計画及び、平成24年度からの沖縄振興計画（沖縄21世紀ビジョン基本計画）、また令和4年度からの沖縄振興計画（新・沖縄21世紀ビジョン基本計画）に基づくこれまでの総合的な施策の展開により、社会・経済の各面で本土との格差も次第に縮小し、県民生活も向上しました。

しかしながら、社会資本整備等における本土との格差は総体として縮小したものの、流域における都市化の進展や山地開発等に伴う流出率の増大、保水能力の低下や、台風期や梅雨期等の集中豪雨による短時間の降雨量が極めて大きいという特性と相まって、急激な出水を伴いやすく、床上・床下浸水等の洪水被害が毎年のように発生しています。

また、県土が狭いうえに利用可能な平地が少なく、加えて良好な平地部では駐留軍用地が占有していることから地形条件の悪い丘陵地や急傾斜地近くまで、住宅や要配慮者利用施設等の各種施設の立地が進行していることから、大雨による斜面崩壊や地すべり等の土砂災害も毎年のように発生しています。

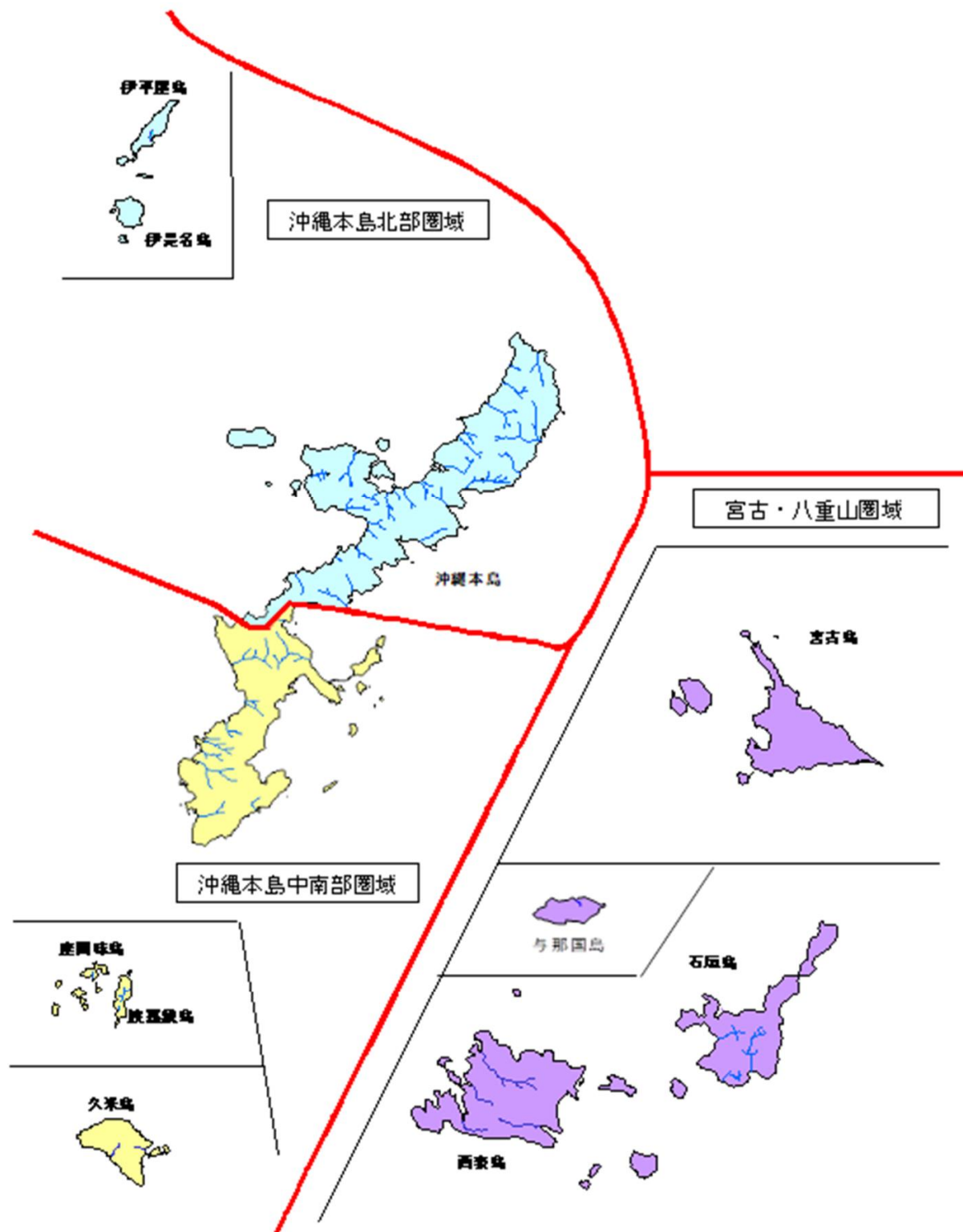
このようなことから、自然災害から県民の生命と財産を守り、安全で快適な住みよい生活環境を確保するとともに、沖縄県特有の景観や生態系などの自然環境と調和した整備を進めているところです。

こうした中、近年の豪雨災害等の総合的な水害・土砂災害対策を進めるにあたっては、国と県等が連携し、流域全体の安全度の向上を図っていく必要があります。

このため、内閣府沖縄総合事務局と沖縄県は、沖縄県内を降雨や地形的な特性が同様の3圏域に分割し、治水安全度、整備状況等に関して情報共有・意見交換等を行い、圏域における防災対策事業を一体的に実施するとともに、治水対策の方針の作成・公表及び直轄事業・沖縄県等の事業の効率的な事業展開を図るために総合流域防災協議会を設立しました。

(2) 圏域区分図

沖縄県では、沖縄県内を降雨や地形的な特性が同様の3圏域に分割しており、下図のように3つの圏域（沖縄本島北部圏域、沖縄本島中南部圏域、宮古・八重山圏域）に区分しました。



2. 水害・土砂災害対策等の現状の課題及び当面の進め方

(1) 沖縄本島北部圏域

①最近の出水及び被害状況

これまでの河川整備に伴い、過去の被害と比べて浸水家屋は減少していますが、近年でも局所的な豪雨によって未整備箇所等において浸水被害が発生しています。

過去の主な浸水被害

水系名	河川名	災害年月	災害原因	浸水被害 (戸)	最大1時間 降水量(mm)	市町村	整備状況	完了年度
羽地大川	羽地大川	昭和59年8月	台風10号	12	47	名護市	整備済	平成14年
		平成6年5月	豪雨	7	29	名護市	整備済	平成14年
幸地川	幸地川	昭和44年10月	台風12号	1,230	不明	名護市	整備済	平成16年
汀間川	汀間川	昭和44年10月	台風12号	255	不明	名護市	整備済	平成15年
		平成10年7月	豪雨	4	60	名護市	整備済	平成15年
比地川	比地川 宇良川	昭和41年5月	豪雨	151	不明	国頭村	中断	—
比地川	比地川 奥間川	平成7年6月	豪雨	10	77	国頭村	中断	—
		令和6年11月	豪雨	31	159	国頭村	中断	—
満名川	満名川	昭和44年10月	台風12号	543	不明	本部町	整備中	—
		平成24年9月16日	台風16号	328	36	本部町	整備中	—
		令和5年8月5日	台風6号	2	24	本部町	整備中	—
我部祖河川	我部祖河川	昭和59年8月	台風10号	22	47	名護市	整備中	—
		平成12年7月	豪雨	7	60	名護市	整備中	—
真喜屋大川	真喜屋大川	平成10年10月	豪雨	8	76	名護市	整備中	—
屋部川	屋部川	昭和44年10月	台風12号	435	不明	名護市	整備中	—
		平成10年10月	豪雨	5	76	名護市	整備中	—
屋部川	屋部川 西屋部川	平成11年9月	台風18号	17	38	名護市	整備中	—
屋部川	西屋部川	平成10年10月	豪雨	17	76	名護市	整備中	—
		平成11年4月	豪雨	4	36	名護市	整備中	—
		平成19年8月	豪雨	42	63	名護市	整備中	—
大井川	大井川	平成19年8月	豪雨	214	45	今帰仁村	整備中	—
億首川	億首川	平成12年11月	豪雨	2	85	金武町	整備中	—
有銘川	有銘川	平成24年9月16日	台風16号	30	61	東村	整備中	—
		令和6年11月	豪雨	10	141	東村	整備中	—
大保川	大保川	平成24年9月29日	台風17号	31	15	大宜味村	整備中	—

- ・比地川河川氾濫状況（令和6年11月）
（国頭村「比地集落」付近）



- ・奥間川河川氾濫状況（令和6年11月）
（国頭村「やんばる野生生物保護センター」付近）



- ・満名川河川氾濫状況（平成24年9月）
（本部町「開洋橋」付近）



- ・有銘川河川氾濫状況（平成24年9月）
（下流付近）



②土砂災害等

近年では、平成14年7月に発生した台風7号により本部町伊豆味地区、また平成30年6月に発生した台風6号により大宜味村田嘉里地区において急傾斜地斜面が崩壊し、土砂災害が発生しました。

近年の主な土砂災害

地区名	災害年月日	災害原因	被害状況
本部町東地区	平成10年2月	豪雨	全壊家屋1戸
本部町谷茶地区	平成12年8月	台風8号	一部破損家屋3戸
本部町伊豆味地区	平成14年7月	台風7号	半壊家屋1戸
東村平良地区	平成27年7月	豪雨	国道及び護岸の被災
大宜味村田嘉里地区	平成30年6月	台風6号	一部破損家屋1戸

・土砂崩壊状況
(本部町谷茶地区：平成 12 年 8 月)



被害状況： 家屋 2 棟の一部破損
物置 1 棟全壊
車庫の一部破損



(東村平良：平成 27 年 7 月)



被害状況：国道及び護岸が被災

(大宜味村田嘉里：平成 30 年 6 月)



被害状況：家屋 1 棟に一部崩壊土砂到達

③水害・土砂災害対策等の課題

- ・ 北部圏域の河川については、これまでの整備により、浸水被害が減少していますが、局所的な豪雨等による被害が発生しています。
- ・ 当圏域は、沖縄県の中でも重要な自然環境を有する地域を含んでおり、事業実施に当たっては環境との調和を図る必要があります。
- ・ 公共事業予算に限りがあるなかで、効果的・効率的な治水及び土砂災害対策を図る必要があります。

ソフト対策

- ・ 急速なハード整備が進まない状況のなか、依然として自然災害が毎年のように発生する傾向にあることから、自主避難や避難警報発令等に役立つ情報の提供など人命を保護するためのソフト施策を推進する必要があります。

④水害・土砂災害対策等の当面の進め方

- ・ 自然環境豊かな沖縄本島北部圏域においては、環境の保全と復元に十分配慮しつつ水害・土砂災害対策を引き続き推進します。
- ・ 西屋部川は、流下能力向上のため市道 8 号線勝見橋から上流に向けて、多自然川づくりによる河川改修を引き続き実施します。
- ・ 我部祖河川は、流下能力向上のため、国道 58 号山田橋から上流に向けて、多自然川づくりによる河川改修を引き続き実施します。
- ・ 億首川キャンプハンセン内の狭窄箇所については、沖縄防衛局及び米軍と円滑な整備のための協議を行い、早期整備完了に向けて、多自然川づくりによる河川改修を引き続き実施します。
- ・ 比地川は、浚渫に取り組んでおり、河川簡易カメラや回転灯を設置しております。
- ・ 令和 6 年 11 月豪雨で護岸等が被災した有銘川と田嘉里川については、災害復旧事業を活用し、早期復旧に努めます。
- ・ 浚渫が必要な河川については、緊急浚渫推進事業債等を活用し、浸水被害の軽減に向け、適切な維持管理に努めます。
- ・ 土石流対策として大宜味村の饒波川、小兼久川、名護市の東屋部川、安和与那川を、急傾斜地崩壊対策事業として名護市の世富慶地区、二見（4）－2 地区、金武町の金武浜田原地区を地すべり対策の緊急改築として国頭村の宜名真地区を実施します。

ソフト対策

- ・ 国管理ダムでは、流域住民の洪水被害等の予防、迅速な避難等を支援する観点から、ダム放流警報施設や電光表示板等の河川管理施設を、市町村が実施する警戒避難等に関する情報伝達提供ツールとして利用を可能とする取り組み（施設の開放）を引き続き推進します。
- ・ 雨量計及び水位計のデータを管理し、水防管理者に情報提供を行うことで水防活動を引き続き支援します。
- ・ 北部管内での河川の氾濫や崖崩れ等が起こる可能性を想定し、想定最大規模の降雨による「洪水浸水想定区域図」を作成し、浸水被害がどの範囲まで広がるか情報提供しているところであります。
- ・ 市町村が洪水時の円滑かつ迅速な避難を行うため作成する「水害ハザードマップ」の基礎情報として、「洪水浸水想定区域図」を情報提供していきます。
- ・ 県と沖縄総合事務局は、NHKとの協働により、平成23年6月からNHKの「データ放送」を通じて主な河川の水位や雨量の状況をリアルタイムで確認できるよう情報提供を行っています。
- ・ 河川水位等のデータ取得を10分間隔から1分間隔とすることや、伝送路の二重化による欠測の低減等、河川情報システムの機能強化を引き続き実施します。
- ・ 河川情報システムの機能強化として、平成30年4月から流域住民が登録したメールアドレスに自動的に河川水位の到達を配信する機能を追加しています。
- ・ 土砂災害からの警戒避難のため「土砂災害警戒区域」及び「土砂災害特別警戒区域」の指定を進めるとともに、2巡目の基礎調査を実施しています。

【令和7年9月末時点】

土砂災害警戒区域：801 区域指定済み

土砂災害特別警戒区域：746 区域指定済み

北部圏域の河川整備の事例

奥川 (国頭村「奥ヤンバルの里」付近)

改修前



改修後



改修前



改修後



改修後



西屋部川
(名護市「西屋部橋」付近)

改修前



改修後



我部祖河川
(名護市「山田橋」付近)

改修前



改修後



屋部川
(名護市「白銀橋」上流付近)

改修前



改修後



北部圏域の急傾斜地崩壊対策、総合流域防災対策の事例

宇茂佐地区急傾斜地崩壊対策

対策前



対策後



安和与那川総合流域防災対策事業

対策前



対策後



世富慶地区急傾斜地崩壊対策事業

対策前



対策後



⑤主要事業

圏域内の主要事業について示します。

- ・ 屋部川河川改修事業
- ・ 安和与那川砂防事業

広域河川改修事業（屋部川水系屋部川）

沖縄県名護市

1. 事業概要

屋部川は、名護市の中央部に位置し、名護岳を源に、名護市街地の北西域を流下した後、河口部で支川の西屋部川と合流して名護湾に注ぐ、流路延長6.1km、流域面積20.6km²の2級河川である。

平成19年8月の豪雨において、名護市為又地区で大型店舗兼アパートの床下浸水や道路冠水等の被害が発生するなど浸水被害が発生しており、早期に広域河川改修事業による浸水被害の軽減を図る。

2. 事業期間および事業費

事業期間：昭和49年度～令和7年度

全体事業費：8,653百万円

進捗率（令和6年度末、事業費ベース）99.4%

令和6年度当初

事業費 10.0百万円

令和6年度補正

事業費 100.0百万円

令和7年度当初

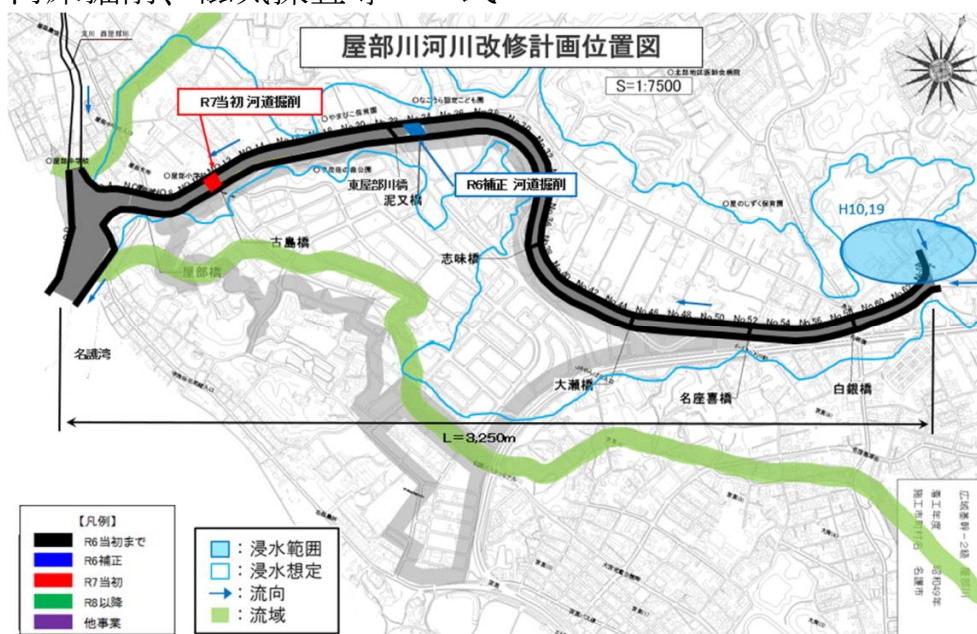
事業費 118.0百万円

位置図
沖縄県名護市屋部
地先付近



3. 令和7年度の事業概要

河床掘削、磁気探査等 一式



あわよながわ
安和与那川砂防事業(沖縄県名護市)

なごし



○事業目的

当河川では、平成10年10月の集中豪雨により溪岸が浸食されるとともに、多量の土砂を含む洪水が氾濫し、沿川の集落での床上浸水3件、床下浸水5件や農作物(2.2ha)への多大な被害が発生した。その後も、平成17年、24年、30年と度々同様の被害が発生しているため、既設の砂防ダムから下流において流路工を整備し、溪岸崩壊による土砂発生防止、洪水氾濫の防止を行う。

○箇所概要

流域面積: 3.85km²、普通河川延長: 約2km

○実施内容

保全対象: 人家149戸、耕地4.4ha、国道449号

実施内容: 流路工L=640m

全体事業費: 2,066百万円(H18~R12)

R8年要望額: 16.1百万円(国費: 14.5百万円)

R8年度実施内容: 物件調査、用地補償等

R6末進捗率(事業費ベース): 77.0%



①下流での氾濫状況(H10.10)



②下流での氾濫状況(H10.10)



③溪流の荒廃状況



凡例

- R6年度以前
- R7年度実施
- R8年度要求
- R9年度以降

